

尻別川流域委員会（第4回）議事要旨

- 日時： 令和5年10月23日（月） 13：30～15：30
- 開催場所： 蘭越町ふれあいプラザ21 大ホール（WEB開催併用）
- 出席者： 山田委員長、ト部委員、小田桐委員、黒川委員、菅井委員（WEB）、谷口委員、
（以上6名）※委員長以降の順は五十音順
- 議題 1. 尻別川流域委員会について
2. 尻別川流域の現状と課題
3. 尻別川水系河川整備計画の点検のポイント

■議事要旨

議事に入る前に、委員長の選出が行われ、山田委員が推薦され承認された。
また、副委員長は、山田委員長より江頭委員が指名された。

1. 尻別川流域委員会について
特段意見なし。

2. 尻別川流域の現状と課題

【委員】

- ・ 気候変動の影響を踏まえ、内水氾濫の規模も大きくなることが想定されるが、捷水路整備後の旧川跡地で氾濫が起きる事例や排水にかかる時間は考慮されているのか。

【事務局】

- ・ 旧川跡地は地形上、低みになっており水が付きやすい特性がある。内水排除については釜場などの設置を検討する際、排水時間の検討を行っている。

【委員】

- ・ 現地視察で河道掘削の状況を見たが、非常にいい環境が出来上がっており、グリーンインフラのレベルにまで到達していると感じた。これまでトレードオフだった治水と環境の関係が変わってきたと感じる。
この結果を地域特有のインバウンドに対する観光への波及を考えたとき、非常に良い事例と感じるが、この効果を流域全体にどう波及させるか、情報があれば提供してほしい。

【事務局】

- ・ 流域ネットワークの観点も踏まえ、直轄区間のみに限らず河道掘削の事例などを広げ

ていきたい。

【委員】

- ・ 産卵床の増加など、河川改修による環境へのプラスの効果も今後発信するべきと考える。近隣の桜づつみや色々なアクティビティーの中などでも、発信する場をつくりことが重要である。結果的に地域との良いサイクルを生み出すことが出来るのではないかと感じている。

【事務局】

- ・ 今後はいろいろなものと組み合わせ、環境問題や生物のこについて、啓発、啓蒙も展開していきたい。

【委員】

- ・ 今回、蘭越町で蒸気噴出事故が発生し、水質は非常に重要だと感じた。現在においても実被害は無いが、こういった水質事故が発生した場合、速やかに地域に連絡する体制はできているか伺いたい。

【事務局】

- ・ 水質事故に関しては毎年、北海道や他機関も含め、連絡系統を作成・更新している。また、水質に関する会議も関係機関と毎年開催し、意識を高めている。

【委員長】

- ・ 上流域での雨の降り方や、火山性堆積物で構成される流域であることを踏まえ、河川管理者として大雨が降った場合の課題などについて伺いたい。

【事務局】

- ・ 東西に長い流域を形成しており、洪水域の雨雲の移動の仕方も流域に沿って動くというパターンも多いと想定している。また、直轄区間は短いものの、全体としては広い流域なので、上流の水位のピークやダムから流れてくる水なども考慮しつつ対応する必要があると考えている。

【委員長】

- ・ 水害タイムラインが蘭越町で作成されているが、大雨が降って洪水氾濫が発生すると、貯留型の氾濫形態も考慮すると、川の近傍では避難が難しいことがあるかと思う。これらの特徴をどう捉えているのか伺いたい。

【事務局】

- ・ 氾濫が発生した際には、貯留し易い状況である。その地区につながる道路も寸断されるため、早期の避難の重要性を考えタイムラインを作成し、それに基づき訓練等を実施し、タイムラインの精度検証をしながら進めている。

【委員長】

- ・ 特徴的な氾濫形態を踏まえ、米を代表とする産業形態をどう維持、発展していくか、また、地域だけでは無く観光客も含め、どう情報提供していくかが重要な流域と考えられる。

3. 尻別川水系河川整備計画の点検のポイント

【委員】

- ・ 洪水時の内水氾濫時には、移動ポンプ車で対応しているが、数が不足している。固定式排水ポンプを備えていれば被害の拡大を抑えられると思うが、河川管理者の見解を伺いたい。

【事務局】

- ・ 固定式ポンプを設置して対応している地域もある。内水氾濫の状況も踏まえ、蘭越町とも協議調整しており、引き続き気候変動も踏まえて、さらに密に取り組んでいきたい。

【委員】

- ・ 国が管理されている区間は勾配も緩く浸水継続時間が長くなると思うが、気候変動も踏まえた浸水継続時間について計算されているのか。

【事務局】

- ・ 浸水想定区域図と合わせて浸水継続時間を公表している。気候変動を踏まえた浸水時間がどれだけ増えるかについて公表していないが、対策を考える上で重要な要素だと認識しており、今後必要に応じて検討していきたいと考えている。

【委員長】

- ・ 水害リスク評価は、気候変動による被害額やリアリティーを持った被害に関する情報を定量化するということを表している。水害リスクを踏まえ、施設の立地適正化を判断する上でのポイントになると考えている。

【委員】

- ・ 尻別川流域は非常に雪が多いと認識しているが、気候変動により、融雪が早まるということもあると思うが、融雪出水について検討していることがあれば伺いたい。

【事務局】

- ・ 気候変動によって融雪出水が前倒しになることや、アイスジャムなどの影響も注意する必要があると考えている。

【委員長】

- ・ 気候変動の影響を踏まえた対応については、ニセコのような世界的な観光地域の価値観や、クオリティーにも非常に影響を与えられられる。これを踏まえて流域全体をどう俯瞰すべきか、その上でこの流域をどう前向きに考えていくかを議論出来ればと考える。

【委員】

- ・ 田んぼダムの効果は数値化できているのか。

【事務局】

- ・ 田んぼダムの河川に対する効果については、現状数値化できていない状況ではあるが、内水氾濫に対する効果を示す等の整理が考えられる。

【委員】

- ・ 令和 3 年の暑い夏の時期には色々な地域で冷水性の魚が死んでいる情報が報告されており、気候変動による気温の上昇が川の中の生物に影響を与えているのは事実であると考えられる。ただし同年、尻別川水系ではあまりそういった報告はされていない。火山岩系の地質が水温上昇のレスポンスを低下させる、というポテンシャルがこの水系が保有している可能性はあると考えられる。

【委員】

- ・ 尻別川クリーン作戦の活動など、他の地域の方に対してもとても魅力的な河川だと感じるとともに、今後も色々な人を取り込むことができる可能性があると感じる。
- ・ 流域治水は地域住民と協力して取り組むことは必要不可欠であるが、高齢化が進む中、流域治水の取り組みをどのように維持するのが課題となる。この課題を解消できる手法を導き出せば、尻別川流域だけでなく全国の流域治水に対してロールモデルを示すことができる。

【委員】

- ・ この地域は水が豊富で稲作に適している一方、これまで水害に遭うたびに打撃を受け離農者もいたが、水害を乗り越えてきた地域なので今後も未来に向けてもっとよい治水に取り組んでほしい。

【委員】

- ・ 現在でも絶滅危惧種のイトウが生息しており、さけますの重要な産卵環境も形成され、さらにブランド力を持った農業など非常に地域のポテンシャルが高い。兵庫県円山川がロールモデルとなると想像する。これまでの取り組みを高めていけば、尻別川も流域治水の一つのモデルとなる可能性がある。

【委員】

- ・ 各委員より頂いた尻別川の豊富な水量や水質など様々なポテンシャルについては、意外と地域住民に十分伝わっていない可能性もあることから、今後、倶知安風土館でも情報発信していきたい。情報発信することで、本整備計画にも良い影響となればと考える。

【委員長】

- ・ 本日は気候変動や流域治水という観点も踏まえ、尻別川河川整備計画変更の必要性が示された。
- ・ 次回以降、尻別川河川整備計画変更原案について具体的な議論を進めていきたい。

【事務局】

- ・ 次回委員会では、本日頂いたご意見を踏まえて、尻別川河川整備計画 原案として提示し、議論させていただきたい。

以上